

令和6年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ③LGBTQ への理解と誤解や偏見の解消

- ◆ LGBTQ という言葉は、耳にすることも目にすることも多くなっている時代で、実際、私の身近にもいるので、自分自身では偏見はないつもりでいましたが、今回しっかりと話を聞き、また少し考え方が変わったように思います。誰もが自分らしく生きていけるようになるにはまだ時間がかかるかもしれませんが、まずは、支援員として今すぐ出来る、子どもの呼び方を「～さん」で統一するということを実践していこうと思います。
- ◆ 他者の心を正確に理解することは難しいですが、どんな立場に属する人に対してもその人の持つ背景にとらわれずに関わっていきたいと思いました。子どもに男の子らしさ・女の子らしさを押しつけることはまず無いですが、自分にそのつもりがなくてもそう捉えられてしまうことが無いか、表現を考えたり行動を振り返ったりするようにしていきたいです。また、自分がカミングアウトを受けることがあったら、信頼に応えられる様でありたいと思いました。
- ◆ 最初にランドセルを選ぶ CM を見て、とても身近なことなのに、個性への自分の理解がまだ現実に追いついていないことに気がつきました。皆が持っている個性のひとつである LGBTQ がいじめの対象にならないように、自分で性別を選んで良かったと思って生きていけるような社会になるように、うわさや間違った情報に惑わされず、正しい情報を共有しながら子どもたちの支援をしていきたいと思いました。
- ◆ LGBTQ の方々が10人に1人の割合でいることを知り、とても身近に感じました。子どもは大人をよく見ていて、期待に応えようとしますが、しっかり気持ちを聞いてあげて、一人ひとりの個性が受け入れられる環境づくりが重要であることを学びました。意識せずに使っている言葉や伝え方でも、“押しつけられている”、“決めつけだ”と感じ、知らずに人を追い込んでしまう危険性があることを頭に入れ、落ち着いて相手の話を聞いていきたいです。
- ◆ 今回の研修で、何よりも「知る」ことの大切さを改めて感じることができました。無知・無理解・無関心が偏見・差別を生むことを心に留めておくことが大事であると感じました。また、それぞれに持っている価値観は様々であり、自分の当たり前は必ずしも相手にとっての当たり前ではないことを心に留めておかなければならないと思いました。自分たちの中にある思い込みに気づかせてくれる優しい語りかけでした。ありがとうございました。